

～SDGs未来都市生駒の創造～

一般社団法人 市民エネルギー生駒
代表理事 楠 正志

エネルギーから考える市民によるまちづくり

1. 市民エネルギー生駒の誕生

東日本大震災と、それに伴う福島第一原子力発電所の事故により、日本の電力事情は大きく変化しました。生駒市でも再生可能エネルギー導入への気運が高まり、市民による市民共同発電所設置の検討準備会を始めました。2013年10月にECO-net 生駒(*1)エネルギー環境部門の有志が中心となって市民エネルギー生駒を設立。固定価格買取制度(FIT)を活用した全額市民出資による市民共同太陽光発電所事業「環境に優しく安全性の高い再生可能エネルギーの普及と地域のエネルギーによる収益を地域に還元地域の活性化を生み出す」を目的として設置に向けた本格的な取組を開始しました。

(*1)生駒市環境基本計画推進会議

2. 市民共同発電所これまでのあゆみ

1)設置に向けての課題克服

生駒市との打ち合わせが始まりましたが、課題は山積でした。環境モデル都市選定を目指していた生駒市にも協力頂き公共施設の屋根を長期間(最低 20 年間)無償貸与する契約を締結。全く信用及び知名度のない市民団体がファンドとして調達する事業費は1,700万円、それも多くの市民による共同発電所とするため出資額を1人当たり2口20万円までと限定、生駒市民からの出資を半分以上とする目標を定めました。更に生駒市からは初対応のため施工業者決定は公募型プロポーザル方式とし生駒市内業者を選定する事、パネルは国産品を使用する事、しっかりした事務所を構え、技術会計の専門家を理事に加える事、20年間の事業計画提出等次々と難題が飛んできました。

本当にあと半年で完成するのだろうか不安で一杯になり、定年後のボランティアで何故こんな事を始めたのか後悔もしましたが、持続可能な社会実現のため決意した目標に向け、自分達の力を信じて定めたロードマップに基づき一步一步実践する毎日が続きました。

2)1号機完成により得た自信と信頼

何度も説明会を開催、駅でのチラシ配布等1人1人

に自分達の熱き思いを訴え、最後には目論見通り1,700万円の資金を85名の出資者、内約8割を生駒市民が占めるという素晴らしい成果を残し2014年3月に奈良県初の全額市民出資による市民共同発電所1号機が完成し市長にスイッチを起動頂きました。多くのメディアに大きく取り上げられ自信になると共に、本当に完成するのか疑心暗鬼であった生駒市及び市民にも信頼を頂く事が出来ました。

これがベースとなり、20年間更新する可能性がほとんど無い施設・法面を候補地として提案頂いた生駒市の協力を得て、これまで全額市民出資による市民共同発電所を4機完成させる事が出来ました。

<1号機>2014.3完成



3)市民への浸透と収益の地域還元

完成した市民共同発電所は全て順調に稼働しており、再生可能エネルギーによる地産地消に大きな一歩を踏み出しています。又、得られた収益でこども園舎名の看板や介護老人保健施設へのパワーコンディショナー寄贈、多額のふるさと納税、小学生向けのソーラーカー組立教室・再生可能エネルギーに関する講演会の開催等、地域に貢献し環境への意識を広める啓発活動にも取り組んでいます。



ソーラーカー組立教室

4)市民エネルギー生駒の特徴

当法人は市民主体の再生可能エネルギーの普及と電力の地産地消に取り組む事でありその特徴は次の通りです。

- ①市民力の結集：全額市民出資により市民主導で事業費を調達（全4機の生駒市民出資率74%）
- ②セカンドキャリア人材の活躍：現役時代に培った技術やノウハウを活かす。高齢化が急速に進む日本社会において目指すべき一つの地域モデル。
- ③幅広い市民に向けた普及活動：こどもからお年寄りまで幅広い市民にむけた環境啓発活動
- ④地域貢献：収益を積極的に地域に還元、地域の発展をサポート

5)栄えある全国賞3件受賞

これまでの取組が、大きく評価され栄えある全国賞を3件受賞することが出来ました。

- ①第4回環境省グッドライフアワード環境大臣賞
優秀賞：2016.12 東京にて受賞
- ②2016 年度新エネ大賞新エネルギー財団会長賞
：2017.2 東京にて受賞
- ③第10回協働まちづくり表彰自治体総合フェア
準グランプリ：2018.5 東京にて受賞

◇受賞により信頼が増し多くの市民が我々の活動に関心を持ち何らかの形で環境活動に参加して頂けるようになりました。実際に、2016 年度ダブル受賞後に募集した FIT の価格ダウンを補い過積載システムにて募集した市民共同発電所4号機 2,300 万円のファンドは予想に反して途中完売となりました。



3. 地域新電力(いこま市民パワー)への参画

2014 年 3 月 1 号機完成と共に「環境モデル都市」に選定された生駒市が、2017 年 7 月に地域新電力会社いこま市民パワー株式会社を立ち上げました。

地域の再生可能エネルギーを最優先で調達し、公共施設・民間事業者・一般家庭に供給する電力小売り事業を切り口に、まちの魅力向上・課題解決に取り組む事を目的としたものです。

収益を株主に配当せず、市民サービスやまちの活性化に活用する方針は、当法人設立の目的と合致し出資の打診を受けた事より全国初の市民団体が出資する地域新電力会社「市民による市民のための電力会社」に出資会社5社の一つとして出資、役員としてまちづくりのため参画する事としました。

いこま市民パワーは、2020 年 11 月に「中長期計画 2021」を策定。市民活躍の受け皿となる「まちづくり会社」を目指しています。

4. 市民によるまちづくり

これまでの活動を通じて感じる事は、関心の高い人だけの取組・参加ではまちづくりは広がらないということです。環境活動は個人・団体の高尚な意識や寄付行為だけでは限界があり、出資者には環境に関心を持って頂くと共に少しでも配当を支給する事や、行政も屋根や遊休地貸与による有効活用を通じ固定資産税収入を狙う等、持続可能な仕組みを創出するにはそこに一工夫が必要となってきます。行政のやり方に外野席でヤジを飛ばすだけではなく、共に汗をかき知恵を出し自分たちの住むまちを共に楽しみながら創っていく事が今我々に求められています。

来年度は、FIT に依存しない5号機の建設、災害時への具体的な対応支援と共に、今年度作成した当法人のロゴマーク (CEI) (*2)やグッズを駆使し、音楽・演劇等環境団体に拘らないコラボ展開による啓発活動に力を入れ、市民として出来る事から一歩ずつあゆみを進めます。

2019 年、「SDG s 未来都市」に選定され、ゼロカーボンシティを目指すことを宣言した生駒市。いこま市民パワーと連携し未来に向けたまちづくりを実践して参ります。

(*2)市民エネルギー生駒ロゴマーク (CEI)

CEI ロゴマーク



一般社団法人市民エネルギー生駒
Citizen Energy of IKOMA

(人体でCEI表現)

URL:<http://shimin-energy.seesaa.net/>